

「行動変容」の立場からの学習場面の分析*

— 相互コントロールとしての教師・児童交渉 —

松村 茂治** 福島 脩美**

行動変容という術語は、もともとは、生体の示すあらゆる行動上の変化をさして用いられるものであり、特定の理論的立場に限定されたものではない。ところが、子どもの行動問題の指導、治療に際して最近多用されるようになったテクニカルタームとしての「行動変容」は、学習理論に基づく指導、治療に限定して用いられている。この立場を特徴づけている考え方のひとつに、ある指導、治療の評価は、それを施す人の意図や対象となる人の心の内部への洞察の適、不適ということとは別に、その処置の持つ効果によってなされるべきである、という視点がある。このことを保証するのが、行動の実験的分析であり、「行動変容」の立場では、現在、そこでなされている行動がとりあげられ、その行動を生起させ、維持していると考えられる種類の要因を明確にし、それを組織的に操作することによって行動の変化をみてゆこうとする。そして、操作した後の行動の変化が、操作前の行動と比較検討され、行った操作が妥当であったか否かが確かめられてゆくわけである。

「行動変容」の立場というのは、理念的には新しいものであるが、現象それ自体は、ことさら、新しいものではない。たとえば、子どもが課題を首尾よく遂行すればほめるし、誤った行動をしたときには注意したり叱責したりする、ということは、「行動変容」の立場とは独立に存在してきたのである。「行動変容」の立場というのは、日常的に行われているそういった現象を、学習理論を基礎にして、組織的に解明してゆこうとするものである。

本論文では、約20名の児童に4-5名の教師がグループ指導を行なう形ですすめられている学習場面で展開されている教師と児童のやりとりを観察し、相互コントロールという視点(一方がある行動をとると、それに対して他方が行動をとる、それを受けて一方が行動をおこし、さらに、その行動が他方の行動に影響してくる等々……)から分析し、効果的な指導的関与のあり方をさぐろうとするものである。

方 法

1. 被験者：小金井市内の小学校で放課後に行われている学業不振児の治療教育(4-5人でのグループ学習に教師1人がつく)に参加している児童(4年生約20名)の中から、あまり課題に集中していない児童を対象児(それぞれX児、Y児)とした。グループ学習の教師は、本学教官、大学院生、学部学生たちである。

2. 観察者、及び、観察手続き：本学学教科3年生(月安優子、中西美穂子、本望悦子)の観

* 1976年10月20日受理

** 教育心理学

察者に、福島、松村が観察指導者として、以下のような観察の要点を与えた。2—3回の観察をして、対象児を決める。その後、その対象児はどのような状況でどんな行動を示し、その行動が教師や他の児童からどのように扱われたか(随件事象)、さらに、その扱われ方が、児童の次の行動にどう作用したか(先行事象)、という枠組で、観察を行なってゆく。

3. 観察期間: 昭和50年10月～昭和51年2月、原則として週1回、各観察後、観察者と観察指導者とはミーティングを開き、得られたデータ、観察法等について検討を行った。

4. カテゴリー化: 観察記録された行動、随伴、先行事象を下記の要領でカテゴリー化した。

対象児の行動——課題にとり組むなどの適切行動 (on); 課題から離れてしまう不適切行動 (off)。

随伴、先行事象——相手をする (W); 指示を与える (D); 教えたり説明したりする (T), その場面を去る (A); ほめる (R); しかる (P); 無視する (I); 採点する (C)。

観察指導者間のカテゴリー化についての信頼度は、行動に関しては91%、随伴、先行事象については90%の一致率であった。

結 果

学習場面での教師・児童交渉が、表1～6に示されるような行動とそれに対する随伴、先行事象として記録され、整理された。

表 1

状 況 (H)	対 象 児 の 行 動	カテゴリー化	随 伴 ・ 先 行 事 象
分数問題配布	<ul style="list-style-type: none"> ・課題にとりかかろうとせず、他の班へ行ったり、席に戻って、問題用紙の裏に野球のベースを書いたりしている。 ・問いかけには応えず、大声を出して書きつづけている。 ・課題をやる気配はなく、野球を続けている。 ・「あっ、ホームラン!」 ・「あっ、くそ!」 	<ul style="list-style-type: none"> off → W off → D off → D off → W off → W off → W 	<ul style="list-style-type: none"> ・「何を書いているの?」 ・「何やってんだよ、1枚くらいやれよ」 ・「1枚くらいやれよ」 ・「ホームランになるのあたりまでだ」 ・「今のは、ライトフライ」 ・「そんなのないよ」
しばらく遊んでいたが、教師から指示が出る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「じゃ、こんなのはどうか」 ・「そだよ、70×40なんて知るもんか!」 ・「へい!」 (少し進む) ・周囲の子どもと話し出す。 ・「できた!」 ・その間、遊んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> (on/off) → D (on/off) → D on → A off → D on → W off → C 	<ul style="list-style-type: none"> ・「なんだまだ1問か、早くやれよ」 ・「今日、この1問終らせろよ」 ・去る。 ・「1問やるんだぞ、まちがえたらもう1問だぞ」 ・採点する。
教師は他の子と話をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のところへ行き、話に入ろうとする。 ・あちらこちらをふらふら歩きまわる。 ・友だちの所へ行き、ボールをかり、2～3人で遊びだす。 ・一番にランドセルを荷負い、出口の方にゆく。 	<ul style="list-style-type: none"> off → I off → I off → (I/W) off → (I/W) 	<ul style="list-style-type: none"> ・無視 ・無視 ・教師は無視し、友人たちが遊びに応ずる。
終了		off → (I/W)	

表 3

状 況 (H) (M)	対 象 児 の 行 動	カテゴリー化	随 伴 ・ 先 行 事 象
<p>問題配布</p> <p>課題遂行のきっかけはあるのだが、持続しない。</p> <p>他の班から雑布がとんでくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 立ち上り、カバンの所へ消しゴムをとりにゆく。 戻ってきて、しゃべり出す。 さらにしゃべる。 きいていて、一緒に話す。 しゃべり続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> (on) → D (off) → W (off) → W (off) → W (off) → W (off) → W 	<ul style="list-style-type: none"> 教師は手まねで呼ぶ。 他の児童応じ、笑う。 他の児童笑い、教師も応じる。 他の児童笑う。 他の児童笑う。 教師は始めるよう促す。
	<ul style="list-style-type: none"> やり始めながら話す。 一緒に話す。 さらに話す。 	<ul style="list-style-type: none"> (on) → D (off) → W (off) → W (off) → A 	<ul style="list-style-type: none"> 教師は始めるよう促す。 話に応ずる。 他の児童、きいている。 教師は去り、他の児童は、課題にとりかかる。 無視される。
<p>課題遂行のきっかけはあるのだが、持続しない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人で話しているが、やがて始める。 やりながら話している。 話し出す。 一緒に話す。 勉強に戻ろうとする。 話し出す。 別のことを話している。 さらに、くだらないことを話す。 	<ul style="list-style-type: none"> (on) → I (on) → W (off) → W (off) → W (off) → W (on) → W (off) → W (off) → D (off) → W 	<ul style="list-style-type: none"> 他の児童、一緒に話す。 教師も加わって話す。 他の児童笑い、一緒に話す。 他の児童が、話すよう、さいそく。 教師も聞いてやり、一緒に話す。 課題を始めるよう、さいそく。 他の児童、笑う。
	<ul style="list-style-type: none"> 始める。 「誰、こんなむずかしいの考えた人」 「むずかしいよ！」を連発。 他の児童に話しかける。 3人で話し始める。 	<ul style="list-style-type: none"> on → D off → I off → W off → I off → W 	<ul style="list-style-type: none"> 始めるよう促す。 無視 他の子笑う。 皆、無視 他の児童、笑い、応ずる。
	<ul style="list-style-type: none"> 文句を言いながら始める。 「これ、できないよ」 「これに線をひいて」 「むずかしい」と言いながら始める。 	<ul style="list-style-type: none"> on → D on → I off → I on → D 	<ul style="list-style-type: none"> 教師は、本児の口をおさえ。「もうだめだ！」という。 無視している。 無視 静かにやるよう注意。
	<ul style="list-style-type: none"> 「あっ、だめだ！」 関係ないことを話し出す。 きいている。そして、一緒に話す。 	<ul style="list-style-type: none"> on → I off → T off → W 	<ul style="list-style-type: none"> 無視 手を伸ばし、教師は教える。 応ずる。
	<ul style="list-style-type: none"> なげ返す。 言い訳する。 課題にとりかかる。 ぶつぶつ何かうたう。 	<ul style="list-style-type: none"> off → (W/P) off → P on → I off → I 	<ul style="list-style-type: none"> 他の班の児童なげ返し、教師しかる。 雑布をとりあげる。 無視 皆、無視している。

れるものの、この適切行動を伸ばすべく交渉はなされていない。教師の関心は、一時的には本児に向けられても、じきに別の方へ向いてしまうのである。中ごろから、頻繁な指示があり、課題への従事がみられるが、採点のときには席を立ってしまう。教師はべつにその行動を禁止する風でもない。

表 4

状況 (H)	対象児の行動	カテゴリー化	随伴・先行事象	
(表3からのつづき) 他の班の児童が来て、消しゴムをとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・大声で「かえせ！かえせ！」 ・「かえせ！」といい立ち上りかける。 	off → (I) off → (W)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は無視、その児童は、消しゴムを上になげる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ぶつぶつ言っているが、課題を始める。 	(on/off) → D	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は注意し、その児童は去る。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・隣の児童に話しかける。 ・「20×□は○だよな」 	off → I on → W on → I	<ul style="list-style-type: none"> ・無視 ・きいていて、応ずる。 ・教師はこたえず。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・しばらく、まじめにやっている。 ・「あれ、これわからないよ」 	on → I off → I	<ul style="list-style-type: none"> ・無視 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・他の子に話しかける。 ・2人で話し始める。 	off → W off → D	<ul style="list-style-type: none"> ・他の児童、応ずる。 ・課題をやるようさいそくする。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・やり始める。 ・床に座り「もう時間だよ！」 	on → I off → W	<ul style="list-style-type: none"> ・無視 ・他の児童、一緒に話すが、課題に戻る。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・いすにもどり「あー、あー」 ・再び、課題にもどる。 	off → W on → I	<ul style="list-style-type: none"> ・皆無視 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・他の班の児童がきて、2人で遊ぶ。 ・他の班の児童が教師にイタズラするのを見ている。 	off → I off → I off → W	<ul style="list-style-type: none"> ・皆無視 ・皆無視 ・教師は無視している。 ・教師、イタズラに気づき、他の子去る。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・他の班の児童を呼びにゆく。 	off → P	<ul style="list-style-type: none"> ・教師、他の班の児童を追い払う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・他の班の児童の遊ぶのを見ている。 	off → D	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は、遊びを止めさせる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・また課題にとりかかる。 ・立ち上り、机の後ろにかくれる。 	on → I off → I	<ul style="list-style-type: none"> ・無視 ・皆無視 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・戻ってくる。 ・隣の児童と話し出す。 	on → I off → W	<ul style="list-style-type: none"> ・皆無視 ・2人の話しに注意せず。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が採点している児童と話す。 	off → (W/D)	<ul style="list-style-type: none"> ・その児童応じ、教師注意する。 	
	他の児童やり始める。	<ul style="list-style-type: none"> ・床の上にもどって遊ぶ。 ・席にもどり、やり始める。 	off → I on → I	<ul style="list-style-type: none"> ・皆無視している。 ・教師、注目せず。
	他の班の児童、後でさわぐ。	<ul style="list-style-type: none"> ・後を見て、立ち上る。 ・隣の児童と話す。 	off → I off → W	<ul style="list-style-type: none"> ・他の班の児童、席に戻る。 ・隣の子応じて話す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「こんな簡単、僕もう終わったよ」 ・「えっ、ちがうの？」 	on → T on → T	<ul style="list-style-type: none"> ・「どれ、あってないよ」 ・説明する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・座ってきいている。 ・鉛筆をしまい始める。 	on → A off → I	<ul style="list-style-type: none"> ・教師去る。 ・無視 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・席をはなれ、あそぶ。 ・教師に近づき、「もう、終わりでしょ」 	off → I off → I	<ul style="list-style-type: none"> ・無視 ・無視 ・答えず、他の児童に教えている。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・席をはなれ遊んでいる。 	off →		

表 5

状況(目録)	対象児の行動	カテゴリー化	随伴・先行事象
課題にとりくむが、中断されがち。	<ul style="list-style-type: none"> ・まじめに課題遂行。 ・近くで遊んでいる児童を見ている。 ・課題にもどる「これ、$\frac{1}{2}$じゃ…?」 ・やり始める。 ・からだをゆすり、イスをカタカタさせる。 ・からだをおこし、キョロキョロする。 ・さわいでいる児童を見ているが、再び課題に戻る。 ・「できた!」といい立ち上り、去りかける。 ・歩きまわり、話しかける。 ・席に戻ってくる。 ・座ってやりはじめる。 ・立ち上り、ふてばこをしまう。 ・答案を返し、歩きまわる。 ・席の近くへ来て、友人と話している。 	<ul style="list-style-type: none"> on → I off → W on → T on → I off → I off → D (on/off) → I (on/off) → (D/C) (on/off) → (W/I) on → D on → I off → I off → I off → I 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は、となりの子を見ている。 ・教師も遊んでいる子を見ている。 ・説明する。 ・隣の児童に説明する。 ・隣の児童の採点する。 ・「もうできたの?」と声をかける。 ・無視 ・ひきとめて、採点する。 ・あまり、相手にしない。 ・「ここまでやってないよ」 ・教師は何も言わない。 ・教師は無視している。 ・無視 ・無視
校内放送がきこえてくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「うるさい!」いい、スピーカーの音量を下げにゆく。 ・教室から出てゆく。 ・帰って来て、「どなりこんできた」といい、話題は放送のことになる。 	<ul style="list-style-type: none"> off → W off → I off → W 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の子笑い、放送のことが、話題になる。 ・無視 ・他の子、応じ笑う。
教師から答案が返される。	<ul style="list-style-type: none"> ・席につき、課題を始める。 ・他の班の児童が近くに来るが、かまわず、課題を遂行する。 ・ナイフを出し、教師に見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> on → T on → C off → W 	<ul style="list-style-type: none"> ・のぞきこみ、教えている。 ・「採点し終わったら呼ぶから」 ・「おもしろい、ちょっと見せて」 ・無視
担当の教師が呼ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・隣の児童と、ナイフのことを話す。 ・立ち上り、何人かの児童と遊び、他の班の教師に話しかける。 	<ul style="list-style-type: none"> off → I off → W 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に話している。
担当の教師が呼ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・「えっちがうの?」 ・しばらく課題にとりくむ。 ・他の班の教師のところへ行き、話しかける。 	<ul style="list-style-type: none"> on → D on → T on → I off → W 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ここちがっているよ」 ・教える。 ・無視 ・応じて、一緒に話している。
担当の教師が呼ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・「またまちがっていた?」 ・やり始める。 ・しばらくして、終る。 	<ul style="list-style-type: none"> on → T on → T on → C 	<ul style="list-style-type: none"> ・教える。 ・説明する。 ・採点する。

表 6

状 況 (目録)	対 象 児 の 行 動	カテゴリー化		随 伴 ・ 先 行 事 象
(表5からのつづき)	<ul style="list-style-type: none"> ・他の児童の遊んでいるところへ行き、一緒にヨーヨーをする。 ・その教師と一緒にヨーヨーをする。 	off	→ W	<ul style="list-style-type: none"> ・他の班の教師が来て、ヨーヨーの話をしている。
		off	← D	
担当の教師が呼ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・やりはじめる。 ・まもなく終り、歩きまわる。 ・「今から、大マジックをします！」と大声をあげる。 ・「大マジックをやるぞ」と他の班の教師に話しかける。 ・座って教科書をひらくが、すぐ立ってゆこうとする。 	on	← D	<ul style="list-style-type: none"> ・「ここ何か多いみたい」 ・みている。 ・周囲の人、あまりかまわない。 ・皆、無視している。
		(on)	← W	
		(off)	← I	
		off	← I	
		off	← I	
担当の教師が呼ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内を歩いていて、他の班の教師のところへゆく。 ・他の班の児童が来て、一緒にヨーヨーをする。 	(on/off)	→ W	<ul style="list-style-type: none"> ・教師はだまって、教科書を見ている。 ・相手にしない。 ・教師は無視している。
		off	→ I	
		off	→ I	

考 察

教師・児童間の相互交渉を、両者の行動のもつ機能的な関連という視点から検討してみると以下のように考えることができる。

1. 教師が児童の不適切行動の相手をするとは、その行動に注目することになり、その行動を助長するような仕方でも機能する(表1, 3)。つまり、これは不適切行動の強化である。
2. 児童の適切行動を認めてほめてやることは、その行動の維持をもたらす(表2)。つまり、適切行動の強化。ところが、適切行動の生起中にそこから遠ざかったり、適切行動と不適切行動とが併存しているときに不適切行動の方に注目をするとは、不適切行動の助長をもたらす(表1, 4, 5, 6) 適切行動中の児童から遠ざかるときには、その行動に注目をし支持、奨励してから遠ざかることが効果的であると思われる(表2)。
3. 採点は、課題遂行の結果である答案に注目し、賞を与えたり結果をフィードバックすることにより(強化)その後の適切行動の維持、増加を図る目的で行われる訳であるが、現実には、児童に、課題から遠ざかる機会を与えてしまっている。
4. 結論として、次のように考えることができる。教師の側からすれば、児童に課題へ向うよう指示し、彼らが課題にとり組んでいれば、それに対し注目することによって適切行動を強化してゆくことが可能である。他方、課題から逃れることに巧みな児童にとっては、教師を遊びの仲間にひき入れることによって、不適切行動を強化してゆくことが可能である。このような意味において、教師一児童間の交渉は、相互コントロールのそれであると考えられる。

The Analysis of Study-situation from Standpoint of Behavior Modification

Shigeharu MATSUMURA, Osami FUKUSHIMA

The interactions between the teacher and the children who engaged in remedial class were observed and recorded from the point of view of their functional relationship.

The results obtained were shown in Table 1~6. The target children's behavior were sorted into 2 categories: appropriate study behavior or inappropriate disruptive and/or disordered behavior. They were coded respectively "on" and "off". On the other hand, the categories for the teacher's and peer's behaviors as follow: Dealing with the child "W", Giving instructions "D", Teaching "T", Rewarding "R", Punishing "P", Moving away "A", Ignoring "I" and Making papers "C".

It was found that by dealing with inappropriate behavior of the children, the teachers gave their attention to that behavior, and that it functioned in the way of maintaining and/or increasing that behavior.

It was helpful to recognize and reward children's study-behavior to maintain that behavior. And especially, when the teacher moved away from the children who engaged in study-behavior, it was important for maintaining the study-behavior to give attention and to support that behavior.

According to our findings, the authors of this article conclude that the controls in the classroom are mutual. For the teacher tries to reinforce the appropriate behavior when the children engage in that behavior, reversely their children try to reinforce their off-task behavior by involving the teacher in that inappropriate behavior.